

インターバンクの声（2015年7月15日）

ギリシャ問題も中国の金融不安も全て片付いたわけではないが、足許の大きな不安は大分収まっており、週初来の為替相場も落ち着いた動きになっている。ドル円相場も、昨晩は6月の米小売売上高が予想に反してマイナスに転じ、一旦は123円を割り込んだものの、123円50銭前後を中心にした取引が続いている。ユーロ・ドルも指標には反応しているが1.10ドルをコアにギリシャ情勢の次の展開を待ちながら、パリティー（1ユーロ＝1ドル）方向へのユーロ売りか1.15ドル方向への買い戻しが良いのか様子を伺っている段階だ。豪ドルに関しては、先月の半ば過ぎから売られっぱなしの状態が続いたが、0.73ドル台になってようやく下げ止まっている。市場は明日のイエレンFRB議長の議会証言を気にしているようだが、一部には今日の日銀金融政策決定会合でよもやの追加金融緩和の実施予想もあり、昼過ぎには先月10日の黒田日銀総裁の“実質実効為替レート”発言以来のサプライズにも備えておいても損はないだろう。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。